

ニーズレター

発行日 2020年4月24日
特定非営利活動法人 グループホームネット香川

春号



五岳の里 市民集いの丘公園(善通寺市)

もくじ

○ 1本の電話	2
○ ネット・ゲーム依存症対策条例に関する座談会	3
○ 新型コロナと私	5
○ 職員の応募がない	6
○ 事務局だより	8
○ 編集後記	8



1本の電話

理事 天満 照美

この話は「NPO 法人グループホームネット香川」のことではありません。これまでに私が経験したことの話です。

私が彼と初めて会ったのはあるバス停です。今から5年ほど前のことです。私の勤務する先に1本の電話が掛かってきました。それは小さい声で、でもはっきりと聞こえる声で「そこはどういう所ですか？」ということだったと記憶しています。そのとき、一度見に来られますかと声をかけて、道順の説明を始めたところ「聞いてもわかりません」という返事でした。そのときは簡単に此処がどういう所で、どういうことをしているかの説明で終わりました。

その後、しばらく経って「この間の者です」と言う電話が掛かってきました。電話ではよくわからないと思い1回来られますか、見てもらうと一番よくわかるのですが、どうかな？という「う～ん」と返事されはっきりしませんでした。でもまんざらでもない雰囲気を感じたので、こちらの場所と道順を説明させてもらいました。わかりますかに対して「だめですわかりません」とのことでした。では途中まで迎えに行きます。どこまで行けばいいですかと告げると、あるバス停を指定してきました。日時の打ち合わせをして電話を切りました。

初対面は私が想像していた人とは違って、がっちりした体格で少し威圧感を感じる人でした。電話では名前は言いたくないといわれていたのでメンバーさんたちには、仮名での自己紹介でした。見学をした感想を求めると「ああ、う～ん、わかりません」とのこと。そうね、1回ではわからないですよねと言うことで、次回の電話を待つことにしました。一か月後電話があり「もう一回行ってみようかな」とのこと。その後、20日～1ヶ月間隔でバス停まで迎えに行くこと5回。最初の電話から6ヶ月ぐらい経った頃、自分で来られるようになりましたが、常にマスクをして人の話は聞いても、自分から話すことは殆ど見られませんでした。



あれから5年。彼はずっと家におられた方ですが、今では頻繁に来所、プログラムの中では、以前の面影を残しつつも自分の意見が言え、仲間の話が聴けるようになりました。仲間も増え、就労にもこぎつけることができました。もちろん減薬に成功です。周囲に対しての感謝の気持ちと心遣いも忘れてはいません。

このことから急がせず、相手の気持ちに無理なく寄り添い、気長に待つことの意味と同時に、本人の勇気ある一本の電話の重みとその凄さを感じています。そして、人との繋がり大切さを学ばせてもらいました。



利用者からの声

香川県ネット・ゲーム依存症対策条例に関する座談会

サービス管理責任者 増田 周作

全国にさきがけて香川県では「香川県ネット・ゲーム依存症対策条例（仮称）（素案）」（以下、ゲーム条例という）が県議会に提出され、2020年3月18日に条例として制定されました。全国ニュースでも取り上げられ話題となっています。

入居者の中にはゲームやパソコンを利用している方も多く、ゲーム条例のことが話題となったので、2020年3月12日にゲーム好きの入居者を中心に、入居者5名職員2名が参加しゲーム条例に関する座談会を開催しました。

まず、話題になったのは、“ゲームの時間を決める”ということについてでした。ご自身の経験から「ゲームを何時間するかは、家庭の問題でしょう」「子どもには好きなだけゲームをしたらいい」「自分で考えて時間を決めさせていた。そうしたら学校の宿題をする時間を考えて、自分でゲームをする時間を決めていた」とAさんは話してくれました。

Bさんからは「ゲーム条例で時間を決めてくれると楽だという話を聞いたが、おかしいと思った」との意見がありました。

他の参加者からも「親の責任逃れではないか」「コミュニケーションを取ることを避けているだけではないか」「今後、行政が介入しないと親子間のルールを決められなくなる」「親が子どもをちゃんと叱れなくなっているのでは」と家庭内の問題としての意見が多くみられました。

ゲームのことについては、「“ゲーム=悪” という考え方があるのではないか」「ゲームを通じて漢字を知るきっかけになったり、歴史を知るきっかけになり興味が深まるということもあった」「ゲームのことを理解してあげると子どもとのコミュニケーションがとりやすくなるという一面もあった」と自身の経験等からゲーム条例に対する反対の意見もあがりました。

今、新型コロナウイルスの問題で休校中だが、ゲームを通じてボイスチャットしてコミュニケーションを取れるし、インターネットを介して授業を行う取り組みもあるので、いいことがたくさんあるとの意見がありました。

スマホやネットの利用に関しては、「ゲームだけではなく、スマホの利用を制限することは、勉強のために検索したり、活用したりすることも制限することになるのでは？」という疑問もあがった。「“なんでゲームだけ？” 他にも依存症と言われる病気があるでしょう」「ゲーム以外の依存症について条例ってあるの」という不満の声があり「ゲーム依存症の診断基準を知りたい」「依存症になった場合の治療法や対策は、十分に準備できているの？」という意見が出て、その場で検索してみました。詳しく調べてみないとわからないことも多く、今後の課題、関心事として参加者それぞれでも調べてみることになりました。

参加者からは、ゲーム条例についていろいろと知れたこと、みんなの意見が聞けて参考になりよかったという感想がありました。最後に、ゲームについては「家庭内でゲームについて話し合いませんか」というところまでで、条例による規制まではいらないのではないかという話になりました。



新型コロナと私

麒麟は来るか

今、日本を含め、世界中が新型コロナに凌駕されている。

私の勤めているスーパーでも、マスクは無くなり、トイレットペーパーも一時消え、イートインは閉鎖となり、自宅待機の職員も出た。と、私ものこの影響からか？期限付きではあるがグループホームでの生活も一部制限が出て来た。毎日、体温と体調を世話人さんへメールする。初めは何ともなかったが、3日も続けていると何やら苦しくなった。職場でも人手不足と今回のコロナの対応で、職員の人々もストレスが溜まっている様に思えた。

これまでは、この様な事は世話人さんに聞いてもらって問題を解決したし、日常のサポートもしてもらっていた。しかし、今はこれを少し我慢しなくてはならなくなった。

何やら私は、職場とグループホームの両方から浮き上がっている様に思えた。また帰宅してからは、コロナのニュースを本気で観て苦しくなった。私は、独りぼっちと考える様になった。その頃、グループホームの方々は、私の事をいろいろと考えて頂いていた様だった。

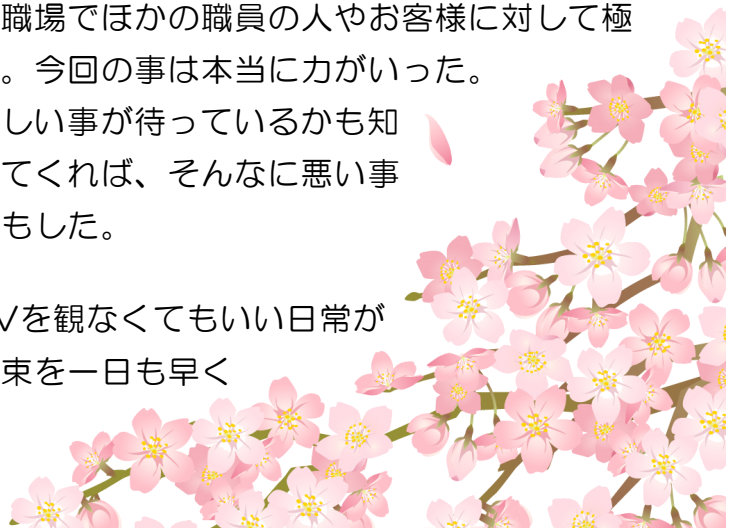
やっと制限も取れてコロナはそのままだが、今までの様なグループホームの日常が戻ってきた。正直なところ私は、グループホームの方々にバツが悪かった。職場の人々も、コロナの対応についても、少し慣れてきている様に感じた。

今回の件で、日常の当り前の事が、いかに大切なのかと身を持って感じた。また精神科病院での入院などとも違う、今社会に起きている事象とリンクする境遇に置かれた時のストレスは、体験者でないとわかりえないと思えた。

今や新型コロナは、感染を拡大し続けている。私達の健康、生活、経済活動はどうなるのだろうか。私は今、職場でほかの職員の人々やお客様に対して極力、元気に振る舞う様にしている。今回の事は本当に力がいった。

さて、私の人生にもまだまだ苦しい事が待っているかも知れない。その時に今回の事が生きてくれば、そんなに悪い事でもなかったのでは、と考えたりもした。

終わりに、毎日ヒヤヒヤしてTVを観なくてもいい日常が帰ってくる様に、新型コロナの収束を一日も早く願っている。



職員の応募がない

サービス管理責任者 増田

2019年度の事業計画として、新しくグループホームを立ち上げるということを掲げて準備を進めてきました。前回のニュースレターでは、グループホームを設立当初の立地やアメニティについてニーズが、変わってきていることなどを記事にしました。

新しく5つ目のグループホームを計画していく中で、ホームワーカーの存在は欠かせないものですが、ここ数年 職員の募集をしてもなかなか応募がないという状況が続いています。これは、当法人に限ったことではないようで、他の事業所でも募集をしてもなかなか職員の応募がないという話を耳にします。

2015年、2016年頃から応募が少なくなっているように感じます。処遇改善加算の見直しがあり、給与が増えているのですが、それでも応募がこないというのが実態です。

そこには、活動の広がりが十分ではないという自戒の思いもありますが、障害者福祉の現場で働くことが、魅力に感じられないという風に受け止められているのでしょうか。

ホームワーカーとして、グループホームで楽しいことばかりではありませんが、自分だけの人生とはまた違った経験を一緒に経験できること、自分の想像を超える豊かな発想を持った入居者とののかかわり、管理的に一方的にかかわるということなく、入居者が主体性を発揮できるように支援すること、苦勞も多いぶん、よろこびも大きい職場だと思っているのですが、世の中にはそういった部分より、大変さしんどさの部分が多く伝わっているのでしょうか。

当法人は、「精神障害を持つ人のグループホームを普及することにより、精神障害者が地域でいきいきとした生活を送れることを支援するとともに、精神障害者が住みよい社会を実現することを目的とする」と定款にその目的を掲げています。グループホームは、その目的を達成するための手段ではありますが、それだけではなく、そこには入居者の日々の生活があり、それぞれの楽しみや喜びなど、かけがえのない時間が存在しています。その思いを共にした人が集まるのが、当法人であり特定非営利活動法人のよさであり、醍醐味だと思います。

グループホームネット香川の活動に賛同し、協働できるホームワーカーを募集しております。ご紹介していただける方がいれば、ぜひともご連絡をお願いします。

防災訓練の様子



2020年3月10日

防災訓練のため
香川県防災センターへ

消火体験を実施



2020年3月10日

防災訓練のため
香川県防災センターへ

煙避難訓練を実施

- ㊦ おさない
- ㊧ はしらない
- ㊨ しゃべらない
- ㊩ もどらない
- ㊪ ちかよらない

事務局だより

年会費の振込をお願いします。

新規入会も随時受付しています。入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

- ご入会いただいた方には、機関誌「ニーズレター」（季刊）をお送りし、またホームページの会員ページへログインできるようにご案内いたします。
- 正会員の方には、総会での議決権がございます。総会開催の2週間前までに郵送にてご案内をお送りいたします。

正会員	3,000円	賛助会員	2,000円
【百十四銀行】	中央市場支店	店番	213
	普通預金		0252017
	特定非営利活動法人	グループホームネット香川	
【郵便局】	01670-4-5576		
	特定非営利活動法人	グループホームネット香川	

■ 2020年度総会開催日時のお知らせ

毎年度6月第2水曜に開催しております定時総会について、2020年度も下記の通り開催予定ですが、コロナ禍の影響により、開催要領の変更する場合がありますので、会員の皆様には、改めてご案内いたします。

日時 2020年6月10日（水）19：00 開会予定
場所 「グループホームネット香川」事務所

編集後記

今、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るっています。こんな勢いで世界を短時間で恐怖に陥れることに改めて驚かされています。

とうとう東京オリンピック2020も延期になりました。仕方がないことだと思いますが、非常に残念なことです。

新型コロナウイルスは街をゴーストタウン化し、人に不安を与え物資の買い占めに走らせました。一つ問題が起きるとこれだけ他方面に影響が出るとは…。今回ほど身に染みて感じたことはありません。この際自分にできるものといえば、三密（密接・密集・密閉）を避け、不要不急の外出をしないことを心掛け、落ち着いて行動をすること、しっかり手洗いをし、マスクをつけること等ぐらいです。うつらないうつさない努力をし、この危機を乗り越えたいものです。（天満）

（発行）特定非営利活動法人 **グループホームネット香川**

連絡先： 香川県高松市成合町559番地15

TEL：087-885-5270 FAX：087-887-5955